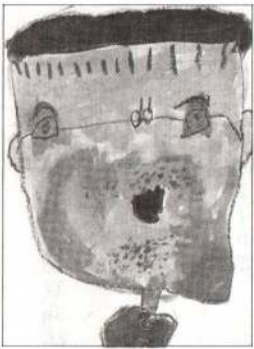




みなと つぐみちゃん
おかあさんは、おりょうりがすこくじょうずだよ。



なかざわ じゅんじちゃん
おとうさんとすもうをとると、ぼくのほうがつよいんだ。



えちご ゆうこちゃん
おとうさんのおヒゲは、チクチクしているからスキ。

ちびっこギャラリー

大館カトリック幼稚園

グループ 紹介 町内の自然にふれて 夏季キャンプ

東有浦子供会は、今から八年ほど前に結成されました。他の子供会に比べると結成が遅いと思われるでしょうが、東有浦町そのものが昭和五十年にできた新しい町内ですから、子供会も新しいというわけです。

会員は現在、幼稚園児から小学六年生まで六十七人を育てるための廃品回収運動、町内の美化を図り奉仕の精神を培うためのクリーンアップと花だん作り、そして毎朝のラジオ体操などが主な活動となっています。

また、夏休みには町内の空地や近くの長木川河川敷でキャンプも行っています。これは、子供たちに「自分たちが住んでいる町内の自然を肌で感じてもらう」と四年前から始められました。キャンプといえば、海か山と考えがちですが、長木川川原での炊飯やキャンプファイヤーは、大館の自然に接することが少なくなつた子供たちに好評です。これらの活動が認められ、六十年に県子供会育成連合会会長から表彰されました。



子供たちが思いっきり遊べる広場や公園がないこと。その悩みを解消するために、長木川河川公園を東有浦まで早く整備してほしいとのことでした。

人物登場

東京からUターンし まきストーブ作りを継ぐ

成田 秀 明 さん
(御成町2丁目・35歳)

成田さんは高校卒業と同時に東京へ就職し、三年後に大館へUターン。地元の会社で五年間勤めた後、家業のまきストーブ作りを継ぎました。

「子供のころからオヤジの仕事を手伝っていたので、後を継いでまきストーブを作ることに何の抵抗も感じませんでした。ただ、最近では石油ストーブが主流なので、まきストーブの需要がどれだけあるか心配でした。」

成田さんが作っているのは、成長式横穴ストーブといって、四十年前ほど前にお父さんの成田長三郎さんが考案したもの。昭和五十九年に特許庁から意匠登録証の交付を受けている発明品なのです。

「オヤジが同業者仲間と『キラタンポの串三本で、一升の米が炊けるストーブを作ろう』と競争し、研究を重ねて作り出したのがこのストーブなんです。タンポの串三本で……とはいきませんが、少量のまきで部屋が暖まりますよ。そのおかげで、我が家のストーブでなければだめというお客さんが多く、中には県南や青森から来てくれる人もいます。」

二年前にオヤジが亡くなりましたが、「手抜きをするな」というオヤジの教えを守って、これからもストーブを作り続けたいと思います。」

お父さんの教えを守り、手作りストーブにこだわる成田さん。これからもガンバッテください。

